

百年を超えて小樽港を激浪から護り続ける長大な防波堤(近代／産業・交通・土木)

概要

小樽港防波堤施設 3所

北防波堤【明治41年】(記録)

南防波堤【大正前期】

島防波堤【大正9年】(記録)

附旧北防波堤斜塊1個、銘板4枚

(所在地)北海道小樽市手宮1丁目地先、同築港地先、同築港2番2号

(所有者)国(国土交通省)

北海道における海陸運輸の拠点小樽港を激しい波から防護するため設置された長大な防波堤であり、北・南・島防波堤の3所からなる。北防波堤は明治41年、南防波堤は大正前期に竣工し、島防波堤と北防波堤延長部が大正9、10年に完成した。コンクリートの巨塊を傾斜させて積む手法と巨大な鉄筋コンクリート造ケーソンによる安定性に優れた構造で築かれ、火山灰を配合して経済性と強度を両立した高度なコンクリート技術も用いた。百年を超えてなお激浪の衝撃に耐え続ける、当時最高水準の技術による土木構造物。日本人技術者が、調査から計画、設計、製作、施工までの全てを統括し、北海道開拓の重要拠点である港湾都市小樽の発展を支え続けた記念碑的な大規模港湾施設でもあり、近代港湾史上価値が高い。

○指定基準＝技術的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

【小樽港防波堤施設 整備経緯】

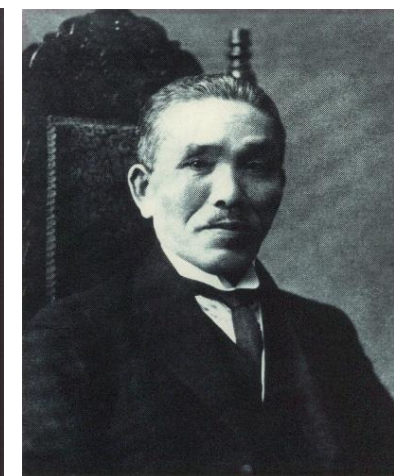
本施設は、小樽港及び港湾に停泊する船舶の保護を目的として、北海道庁が実施した小樽港修築工事の一環として整備された。工事は二期にわたって実施され、北防波堤は第一期工事において北海道庁技師の廣井勇を中心に建設された。工事に先立ち行われた風力、波力、地質等の綿密な調査と、海底の載荷力、捨石の移動、コンクリート強度等に係る調査工事が設計に反映され、施工については英国から輸入した機械を用いて合理化が図られた。南防波堤、島防波堤、北防波堤延長部は、廣井勇の当初計画に変更を加えつつ、第二期工事において北海道庁技師の伊藤長右衛門を中心に建設された。



小樽港防波堤施設

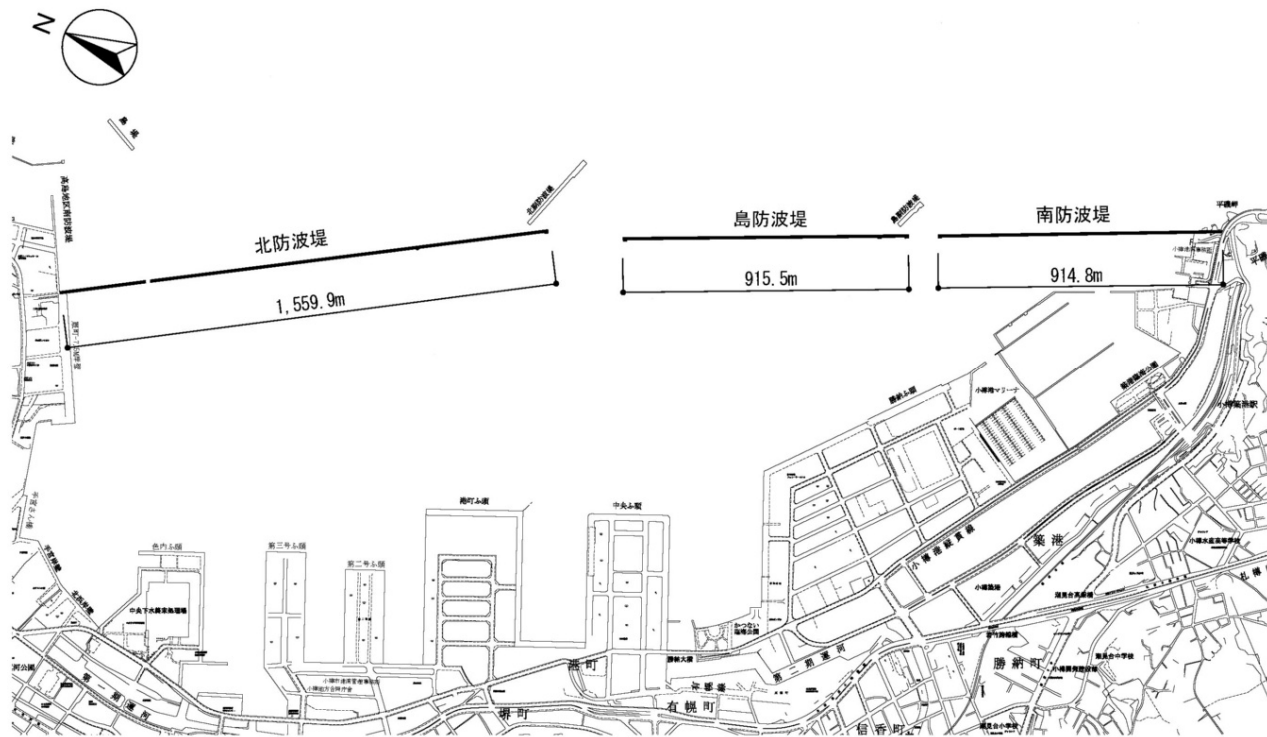


小樽築港事務所
初代所長
廣井 勇

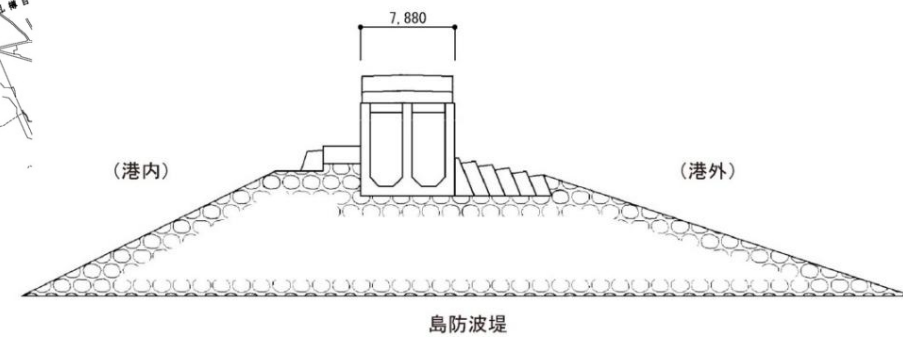
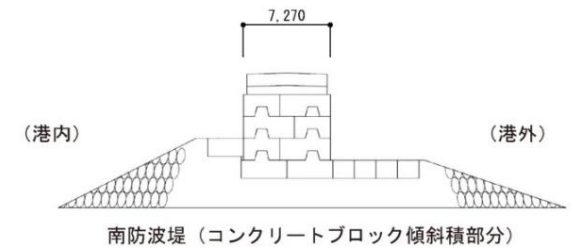
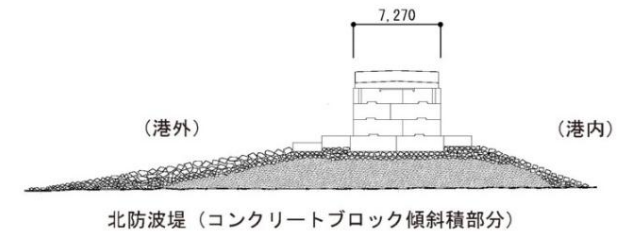
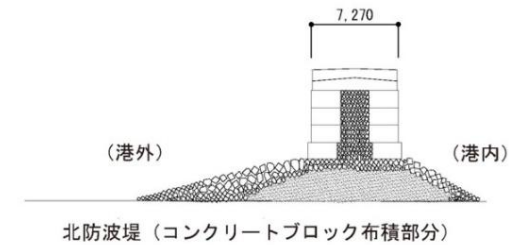


小樽築港事務所
第三代所長
伊藤 長右衛門

【重要文化財 新指定の部】小樽港防波堤施設 3所



小樽港防波堤施設 平面図



小樽港防波堤施設 断面図